

令和3年度 まちづくり懇談会 意見・質疑等要旨

(教育・文化・子育て・交通グループ：R3.10.12)

(1)ないえ温泉のあり方について

意見・質疑等	回答等
<p>◎ないえ温泉はよく利用していたが、今は集まれる場所がないのでとても寂しく思っています。みんなが気楽に集まり温泉に入って帰るとい、そういう所があったら素晴らしいと思います。</p>	<p>◎人口が平成2年にオープンした時に比べて3分の2になっている状況の中で、奈井江町だけではなく、それぞれの施設が苦戦している状況にあると思います。本当は皆さん「やっぱりあったらいいな」と心の中では思っており、私自身もそう思っています。ただ、自分たちの財布の中で温泉をどう存続するのか、どういう形でやれるのかということ私共も悩んでいるものですから、皆さんから忌憚のないご意見をいただきたいと思い、資料をご提供しながら意見をいただいております。今いただいたご意見をそれぞれ重くしっかり受け止めさせていただきます。</p>
<p>◎温泉を再開するにしても、奈井江町自体の人口がかなり減ってきている以上、奈井江町で利用する人で採算がとれるような状態でなければ無理だと思う。他町村から来る人はプラスアルファと考えて除外した考えでやっていかないと、この状態では無理だと思う。だから私はないえ温泉はない方がいいです。</p>	
<p>◎地図を見れば空知管内に温泉はたくさんあるけれども、奈井江だけが温泉がないということ。今後のことを考えると、人も少ないということもあるのですが、どのように予算をとってやるのかわからないが、厳しいかなと思います。</p>	
<p>◎もう少し人口が増えていたら何かできることもあるかなと思うが、今のところ再開は難しいと思います。</p>	
<p>◎調査結果を見ると、なかなか運営していくのは難しいかなと思うが、安定的に集客するようなこと、例えば学校の部活やスポーツ関係の合宿だとか、町の体育館やサッカー場などと連携して合宿を呼び込むようなことをすれば、もしかしたらいけるのかなと。安定的な収入を得られるような施策を考えていけばいいのかなと思いました。</p>	
<p>◎もしも温泉をやめるとなったら建物を壊すのですか。</p>	

	<p>を返していかなければならないですし、やめてしまうとなるとすぐ返しなさいという話になったりするかもしれません。いずれにしても財務省の許可という手続きもありますので、すぐに壊すということは現実的には厳しいと思います。</p>
<p>◎温泉施設の固定資産税はどうなっていますか。</p>	<p>◎税金は奈井江町が徴収するものであり、町の財産に対して課税はしていません。</p>
<p>◎存続してもらいたいが、再開するために700万位かかり、その他に毎年4~5千万近いお金がかかるとなれば、町の理事者の皆さんがやるかどうかということだと思ふ。町民が「やれやれ」と言ったらやるのですか。その辺の考えを聞いていかないと答えが出てこないと思います。</p>	<p>◎町長がやるからやるということではなく、もし再開するとなりますと財布はひとつであり、他のことを削らなければならない。極論ですから誤解をしないでいただきたいが、例えば、温泉をやれば道路はできないなど、そういうことを町民の皆さんが理解して、それでもやっぱり温泉は大切だと思うのかどうか、そこのところを皆さんから聞き、私が判断しなければならないということで、皆さんの意見を聞き時間をかけて議論しているところです。</p>
<p>◎そういう答えであれば、私はこの際やめたほうがいい。お金をかけても将来儲かる見込みがあるのならいいが、そこに引きずられて町財政が悪化するのであれば町民みんなの問題ですから。ただ、ひとつの施設だけをとやかく言うわけではないですし、他にも施設があつて、使っていない所もあるかも知れませんが、やはりこの際はっきり英断したほうがいいと思います。</p>	
<p>◎18 ページの多用途で活用とはどういったものですか。</p>	<p>◎合宿の誘致という回答でありました。</p>

(2) 奈井江版「生涯活躍のまち」の検討について

意見・質疑等	回答等
<p>◎資料2の2ページの見出しで「誰もが躍動し寄り添い集う全世代共奏のまちプロジェクト」となっていますが、この「共奏」という言葉がちょっと引っ掛かります。共に創るなら「共創」、音楽なら「協奏」。「共奏」は辞書に載っておらず、明確な意味がわからないので説明していただきたい。</p>	<p>◎「共奏」という言葉は辞書には載っておらず、いわゆる造語ということで捉えていただければと思います。奈井江町ではまちづくり自治基本条例という理念に基づいて、以前より町民との協働のまちづくりを進めてきたところです。今回の計画では、まちのシンボルのひとつであります文化ホールを交流・居場所の機能の一つと捉えさせていただき、そこを活用したまちづくりを進めてはどうかというご提案をさせていただいております。そのことを踏まえて、より親しみやすく表現できる言葉として、従来からの「協働」という言葉ではなく、音楽だけではなく、色々な動きや活動を含めた取組が出来ればという思いも込めまして、賛否もあるかと思いますが、あえて「共奏」としたところであります。</p>
<p>◎地域公共交通のあり方を検討していくとありますが、今の循環バスは非常に使いづらく、使えない人が増えているので、利用しやすいデマンドバスを提案事項として入れていただきたい。</p>	<p>◎いただいたご意見につきましては、まさにそういうことを問題点として共有させていただいているつもりであります。それらを皆さんともう一回整理して、数少ないですが成功事例がいくつかありますので参考にしながら、奈井江町で少しでも解決に向けて取り組みたいと思います。</p>
<p>◎健康のところですが、健康寿命と平均寿命の乖離が大体10年位の差があるそうですが、病気等などで健康に日常生活を送れなくなった人たちが一体どこへ行ったらいいのか。そういう人たちを収容できる施設が町内でも十分だとは思えませんし、費用の問題もある。健康が大事だということはわかるが、収容施設等の確保や、「乖離したらどうするのか」ということもできたら計画に入れていただきたい。</p>	
<p>◎「音楽に触れ共に奏でる場の提供」とあります。確かにホールは素晴らしいですが、ここは音楽だけではなく、他の芸術を含めて「文化のまち」として、文化水準を上げるという意味で「文化」という言葉を使った</p>	

<p>ほうがいいのではないのでしょうか。</p>	
<p>◎新たなコミュニティについて、総務省が言っているコミュニティは3つに分かれています。生活・交通・福祉、これは地域包括ケアシステムと同じで「元気な高齢者は地元の困難な人のお世話をしましょう」という共生の姿勢が出ているのでしょうかけれども、その課題を新しいコミュニティを作ってどうするのかということ。現在、町内会や老人クラブなどの団体は「人がいない」「役員のなり手がいない」「行事が出来ない」など色々な課題を抱えている。そういう団体を集めて新しい組織を作っても、そこで新しいものが創り出せるとは思えない。また、どんなにいい組織でもそこで人が育っていくような仕組みを作らないと発展していかないと思う。まずは、今ある団体の課題を解決して活性化させていくことの方が大事だと思っています。</p>	
<p>◎温泉のこともそうですけれども、よそのまちにあるからうちも建てたいとなって、全体的にあちこちに出来上がっていますが、人数が減り利用者も少なくなってきています。物事がありすぎるのかなと感じています。ですから「ひとつに」と言いますか「町のこれがメインだ」ということも大事だと思います。</p>	
<p>◎中古住宅の件で、しばらく空き家となっている住宅は冬期間の問題などもありますし、そういう物件を買う人がいるのかなという懸念があります。また、人との交流を図っていきたいと思うが、今はコロナの関係で活動ができない、早急にできるものはないという状況であります。</p>	
<p>◎生涯活躍のまちのなかで、現在の空き家についてですが、町内には空き家・空き店舗が結構あります。その件数と、町として防犯上からもどのような対策をとっているのか教えていただきたい。また、町内にお</p>	<p>◎空き家の件数は平成 29 年度査の時点で 86 件、空き店舗につきましては件数を把握しておりません。新築住宅購入助成については、昨年度の実績となりますが、申請が 13 件、そのうち町外の方が 3 件、町内の方</p>

<p>いて新築工事が結構行われていますが、町外から移住されてきた方がどの位いるのかわかれば教えていただきたい。</p>	<p>が10件となっております。また、中古住宅の購入助成も行っておりますが、昨年度の申請は6件、そのうち半分が町外の方となっております。</p>
<p>◎誰もが躍動し寄り添い集うというのは、戦後、昔ながらのことではないかと思う。今の時代インターネットなどが普及しており、集まるということが無くなってきている。でも、昔ながらの集まりをまた戻そうよということが、今大事になってきているのかなと思う。今はコロナで集まることは出来ないと思いますが、その中で、どんな世代の人たちも集まって、寄り添って、そして助け合って奈井江町を盛り上げていきたいと思いますと思うので、その考えには賛成です。</p>	<p>◎人の関係性だとかということを、もう一回地域づくりといいますか、地区運営の課題なども含めて皆でしっかりと議論することが必要なかなと思っています。結果はすぐには出ませんが、課題として上がっていることを、ひとつひとつ皆さんと相談して、これからもご意見を求めていきたいと思っています。</p>
<p>◎社協でシルバーセンターが似たような仕事のやり方をしていると思う。その中に若い人たちが入ってくれば、段々と輪が広がると思います。新しいものを作るのは大変だと思うので、その辺をうまく考えられたらいいと思います。</p>	<p>◎先進事例もそうですが、シルバー人材センターなどが他のまちでは上手に共存している所もあります。子育て中の親御さんやリタイアして少し時間的に余裕がある方々が上手にコミュニケーションを取りながら、まちづくりに参加しているという仕組みがうまくいっている所もあります。全てがうまくいくわけではないですけども、そういうところから「絆」が生まれて、地域包括ケアみたいなものに繋がっていったという事例もありますから、これからはそういうことを目指す必要があるのかなと思います。取り組みをさせていただこうと思っています。</p>